

俺が、つくる！ 岡野 雅行著

多くの人が著者の名前をご存知かと思う。世界初の「痛くない注射針」を世に送り出した従業員 6 人の中小企業の社長である。

本に示されているプロフィールを紹介する。

「1933年（昭和8年）2月14日、東京・墨田区に生まれる。1945年（昭和20年）、向島更正国民学校卒業後、家業の金型工場を手伝う。20歳頃から本格的に金型の技術を父親から教わり、30代になると量産のためのプラントを開発して売ようになる。1972年に父親から家業を継ぎ、岡野工業株式会社を設立、代表社員を名乗る。「誰にもできない仕事をする」をモットーに、これまでにつくった金型は家電、パソコン機器、医療機器など多岐にわたる。医療品メーカーのテルモ（株）から依頼されたインスリン用注射針（「刺しても痛くない注射針」）を開発したことで、さらにその名声が知られることとなった。同製品で2005年度グッドデザイン賞を受賞。」

本はどこから読んでも面白く、あっという間に時間が過ぎてしまい、「ものづくり」に携わるものを引き付ける。同時に、著者の性格、経営方針などを如実に表している。「痛くない注射針」にいたるまでの経過が分かる。

本は「岡野語録」27編からなっている。面白い語録ばかりだ。経験則から語っているのも、説得力のある言葉ばかりである。参考に最初の5つの語録を示す。

「できない」と言われると、俄然、成功してみせると燃えてくる。

失敗の中から必ず未来に役立つノウハウが生まれる。

技術は見て盗むもの。決して人から教えてもらうものじゃない。

とにかく学校が嫌いだった。その代わり、誰

よりも遊んだよ。

遊びの中から技術を学び、大人とのやり取りの中から商売を学んだ。

それでは、「刺しても痛くない注射針」が完成するまでの過程を次に少し紹介する。

『「刺しても痛くない注射針」はテーパード加工がほどこされていて、ただまっすぐな管じゃない。ただ鉄のパイプを切ただけではできないことはすぐに分かった。そこで、俺は平らな鉄板を丸めて針をつくるのができないかと考えついた。というのは、以前、鉄板を丸めることで作った製品があったからだ。それは光ファイバーのコードだった。（中略）平らな鉄の板を徐々に筒状に丸めていくんだ。丸めてつくれればテーパード加工もできるんじゃないかと考えたわけだ。（中略）薬液が漏れないように隙間なくぴったりと、丸めた先を合わせなければならぬ。合わせた部分は接着剤でくっつけたり、溶接しない。隙間なくぴったり合わせられれば、そんな作業はいらないんだ。」

著者は世界初の製品を完成させるためにどうすればよいか、永年の経験から上記のことを考えついた。テルモ（株）の担当者に言った時、「えっ、そんなことができるんですか」と驚かれたほどであった。そこに、「ものづくり」の真髄を見ることができる。

また、経営の理念を次のことからもうかがうことができる。

「金型の仕事をもらっているうちに、金型とプレス機をセットにし、プラントとして開発できないかという話が出てくるようになった。（中略）こうして俺は、自動化ラインのプラントを売ると言うことが、一つの儲ける仕組みになることを発見したというわけだ」

このように、手軽に「ものづくり」の面白さを知ることができる本である。

（中経文庫、223頁、495円＋税）（能智 功）